

作者プロフィール

柚木 文夫氏

千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

西穂高岳—岩稜を行く—



ピラミッド・ピーク・西穂・奥穂(独標から)



独標からの奥穂・前穂

10時半、独標頂上。奥穂から前穂への吊り尾根、前穂から明神岳にかけての荒々しい稜線が豪快なスケールで目の前に立ちはだかつて見えた。

7月下旬、上高地・小梨平にテントを張って西穂高岳(2908m)に登った。

小梨平もご多分にもれず、近頃のキャンプ場が夜遅くまで騒々しいのは困ったものである。

朝6時、晴天に恵まれキャンプ場出発。河童橋からウェストン碑の前を抜け、シラカバ林の道を進む。田代橋のたもとから西穂の登山道が始まる。薄暗い樹林帯の中を徐々に高度を稼いでゆくが、左下に玄文沢を見下ろす付近から道はあえぎあえぎの急登になる。9時ごろ、やっと稜線に飛び出す。



西穂山荘(後方は焼岳)

屋根の西穂山荘に着き、ゆっくり休憩をとった。

ここから穂高連峰ならではの岩稜の縦走が始まる。左に蒲田川を隔てて眺める笠ヶ岳の威容が素晴らしい。間もなくの西穂独標(2640m)



独標とピラミッド・ピーク

の登りは、ちょっと中世の城壁でも登るような手応えがある。

独標から西穂高岳へは、ペンキの標識に従ってやせた岩稜の登り下りを繰り返す。ガイドブ

西穂山頂から振り返った登路

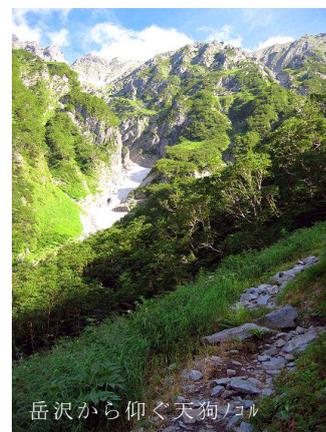


ックによれば西穂頂上までピークの数は14個もある

らしいが、とても数えている余裕はない。ちょうど正午に西穂高岳山頂着。視界360度、正に北アルプスを一望に収める素晴らしい眺望に恵まれた。

帰りは、天狗ノコルから岳沢に下った。天狗ノコルまでは、午前と同じく岩峰の連続であるが、岩質が一変してもろくなり、一步一步慎重に脆い足場を選んでの登り降りとなった。

天狗ノコルから天狗沢を下り、岳沢小屋を経由して小梨平に帰着したのは17時半だった。



岳沢から仰ぐ天狗ノコル